

令和元年 10 月 23 日  
港湾局 海岸・防災課  
水管理・国土保全局 防災課

はまぐちごりょう  
2019年 濱口梧陵国際賞（国土交通大臣賞）の受賞者が決定  
～国外から1名、国内から1名が受賞～

津波・高潮等に対する防災・減災に関して顕著な功績を挙げた国内外の個人又は団体を表彰する「濱口梧陵国際賞」（国土交通大臣賞）について、2019年の受賞者が決定されました。授賞式及び記念講演会は10月29日に行われます。

濱口梧陵国際賞は、我が国の津波防災の日である11月5日が、2015年の国連総会において「世界津波の日」として制定されたことを受け、沿岸防災技術に係る国内外で啓発及び普及促進を図るべく、国際津波・沿岸防災技術啓発事業組織委員会によって2016年に創設された国際的な賞です。

今般、2019年の受賞者が次の2名に決定され、授賞式及び記念講演会が下記の通り開催されますのでお知らせします。

<濱口梧陵について>

現在の和歌山県広川町で生誕。安政元年（1854年）突如大地震が発生、大津波が一带を襲いました。このとき、梧陵は稲むら（稲束を積み重ねたもの）に火を放ち、この火を目印に村人を誘導、安全な場所に避難させました。その後も、被災者用の小屋の建設、防波堤の築造等の復興にも取り組み、後の津波による被害を最小限に抑えたと言われています。



稲むらの火  
（資料提供：内閣府防災担当）

記

- (1) 日 時 令和元年10月29日（火） 16時00分～（授賞式）  
16時45分～（記念講演会）  
(2) 場 所 海運クラブ（東京都千代田区平河町2丁目6-4 海運ビル）  
(3) 受賞者 2名

○柴山 知也 早稲田大学教授／横浜国立大学名誉教授

・40年以上にわたって津波、高潮、高波による沿岸域の被災機構を解明する研究を現地調査、数値予測、水理実験などの手法を用いて実施。2010年チリ津波、2011年東北地方太平洋沖地震津波などで、調査隊長を歴任。

○Ahmet Cevdet Yalciner 教授 中東工科大学（トルコ）

・数十に及ぶ国際科学プロジェクトを通じて、津波の数値解析、津波への認識の向上、津波対策などにおいて多大な貢献。2004年以降、ユネスコにおける多くの津波事後調査チームを率いた。

※上記の時間は変更となることがあります。

※当日は、撮影が可能です。撮影を希望される報道関係者は別紙4「申込用紙」に必要な事項を記入のうえ、10月25日（金）12時までにFAXでお申し込みください。

当日は15時50分までに会場にて受付をお願いします。

【問い合わせ先】

港湾局 海岸・防災課 谷上（46752）、田坂（46764）  
電話：03-5253-8111（代）、03-5253-8689（直通） FAX：03-5253-1654  
水管理・国土保全局 防災課 山崎（35722）、林（35729）  
電話：03-5253-8111（代）、03-5253-8457（直通） FAX：03-5253-1607

# 2019年 濱口梧陵国際賞 授賞式及び記念講演会

我が国の津波防災の日、11月5日が、2015年12月の国連総会において「世界津波の日」として制定されました。この機会をとらえ、沿岸防災技術に係る国内外での啓発及び普及促進を図るべく、我が国において160年ほど前に私財を投げうって村人の命を津波から守った濱口梧陵の名前を冠した「濱口梧陵国際賞」を創設致しました。これにより、津波防災をはじめとする沿岸防災技術分野で顕著な功績を挙げた国内外の個人又は団体を表彰し、その功績を称え、広く世に知って頂くものです。



濱口梧陵

2020年(令和2年)は  
濱口梧陵生誕200年です

日時: 2019年10月29日(火) 16時～  
場所: 海運クラブ  
(東京都千代田区平河町2丁目6-4 海運ビル)  
プログラム: 授賞式 16:00～  
記念講演会 16:45～

## 濱口梧陵国際賞選考委員会 (敬称略)

河田 恵昭 (委員長)	京都大学名誉教授、関西大学社会安全研究センター長、人と防災未来センター長
伊藤 正秀	国土交通省 国土技術政策総合研究所長
諸星 一信	国土交通省 国土技術政策総合研究所副所長
西川 和廣	国立研究開発法人 土木研究所理事長
栗山 善昭 (事務局)	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所長
Dr. Giovanni Cuomo	Research Director, Maritime and Coasts, HR Wallingford, United Kingdom
Prof. Billy Edge	Professor, North Carolina State University
Dr. Jane McKee Smith	Scientific and Professional, Coastal and Hydraulics Laboratory, Engineer Research & Development Center, U.S. Army Corps of Engineers
Mr. Deepak Vatvani	Senior Advisor on Coastal Flooding, Deltares, Netherlands

主催: 国際津波・沿岸防災技術啓発事業組織委員会

(国研)海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所[事務局]、(国研)土木研究所、(公社)日本港湾協会、  
(一財)国際臨海開発研究センター、(一財)沿岸技術研究センター、(一財)みなと総合研究財団、  
(一財)港湾空港総合技術センター、(一財)国土技術研究センター、(一財)河川情報センター、(公財)河川財団、  
(一財)日本建設情報総合センター、(一財)先端建設技術センター、(一社)国際建設技術協会、(公社)日本河川協会、  
(一財)水源地環境センター、(公社)全国防災協会、(一社)全国海岸協会、(一財)土木研究センター

後援: 国土交通省、内閣府政策統括官(防災担当)、和歌山県、広川町

(一社)地域安全学会、(公社)土木学会、(一社)日本建築学会、日本災害情報学会、日本自然災害学会、(国研)防災科学技術研究所

## 2019 Award Ceremony & Commemorative Lecture of

# Hamaguchi Award

## For Enhancement of Tsunami/Coastal Disaster Resilience

Commemorating World Tsunami Awareness Day of November 5, we have inaugurated the “Hamaguchi Award” for individuals and/or organizations that have made significant scientific or pragmatic contributions to the enhancement of coastal resilience against tsunami, storm surge and other coastal disasters, which will raise people’s awareness of disaster resilience. The award is named after Mr. Hamaguchi Goryo who protected and saved a village from a tsunami about 160 years ago.

The award ceremony and commemorative lectures by awardees are scheduled as follows:



Hamaguchi Goryo

The 200<sup>th</sup> anniversary of the Hamaguchi Goryo’s birth will be marked in 2020

<b>Date</b>	<b>October 29, 2019 (Tuesday) 16:00-</b>
<b>Venue</b>	<b>KAIUN CLUB</b> (Kaiun Bldg. 2-6-4 Hirakawa-cho, Chiyoda-ku, Tokyo)
<b>Program</b>	<b>16:00- Award Ceremony</b> <b>16:45- Commemorative Lectures</b>

### Selection Committee on the Hamaguchi Award

Prof. Yoshiaki Kawata* <sup>1)</sup>	Professor Emeritus of Kyoto University, Director of Research Center for Societal Safety Sciences at Kansai University and Executive Director of Disaster Reduction and Human Renovation Institute, Japan
Dr. Masahide Ito	Director General, National Institute for Land and Infrastructure Management
Dr. Kazunobu Morohoshi	Deputy Director General, National Institute for Land and Infrastructure Management
Dr. Kazuhiro Nishikawa	President, Public Works Research Institute
Dr. Yoshiaki Kuriyama* <sup>2)</sup>	Director General, Port and Airport Research Institute
Dr. Giovanni Cuomo	Research Director, Maritime and Coasts, HR Wallingford, United Kingdom
Prof. Billy Edge	Professor, North Carolina State University
Dr. Jane McKee Smith	Scientific and Professional, Coastal and Hydraulics Laboratory, Engineer Research & Development Center, U.S. Army Corps of Engineers
Mr. Deepak Vatvani	Senior Advisor on Coastal Flooding, Deltares, Netherlands

\*<sup>1)</sup> Chairperson, \*<sup>2)</sup> Secretariat

**Organized by** International Promotion Committee for Tsunami/Coastal Disaster Resilience Technology

Port and Airport Research Institute, National Institute of Maritime, Port and Aviation Technology (Secretariat), Public Works Research Institute, Ports and Harbours Association of Japan, The Overseas Coastal Area Development Institute of Japan, Coastal Development Institute of Technology, Waterfront Vitalization and Environment Research Foundation, Service Center of Port Engineering, Japan Institute of Country-ology and Engineering, Foundation of River & Basin Integrated Communications, The River Foundation, Japan Construction Information Center Foundation, Advanced Construction Technology Center, Infrastructure Development Institute-Japan, Japan River, Water Resources Environment Center, Nationwide Disaster Prevention, National Association of Sea Coast, Public Works Research Center

**Supporting Organizations** Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Japan, Director-General for Disaster Management, Cabinet office, Wakayama Prefecture, Hirogawa Town, Institute of Social Safety Science, Japan Society of Civil Engineers, Architectural Institute of Japan, Japan Society for Disaster Information Studies, Japan Society for Natural Disaster Science, National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience

## 受賞者のご紹介

柴山 知也 教授

早稲田大学教授／横浜国立大学名誉教授



柴山知也教授は40年以上にわたって津波、高潮、高波による沿岸域の被災機構を解明する研究を現地調査、数値予測、水理実験などの手法を用いて進めている。2004年インド洋津波、2005年カトリーナ高潮、2006年ジャワ島中部地震津波、2007年シドル高潮、2008年ナルジス高潮、2009年サモア津波、2010年チリ津波、2010年メンタワイ諸島津波、2011年東北地方太平洋沖地震津波、2012年サンディー高潮、2013年ヨランダ高潮、2018年のパル湾津波、スンダ海峡津波などで、いずれも調査隊長を務め、世界中の沿岸災害の被災機構を分析・解明するとともに、様々な対応策を提案してきた。早稲田大学がedXで提供する公開オンライン講座 "Tsunamis and Storm Surges: Introduction to Coastal Disasters" を世界中に向けて開講するなど、国際的な研究基盤の拡大を図っている。Coastal Engineering Journal 編集長、土木学会海洋開発委員会委員長、日本海洋工学会会長などを歴任し、現在は日本沿岸域学会会長を務めている。

Ahmet Cevdet Yalciner 教授

中東工科大学（トルコ）



Yalciner 教授は、1987年以來積極的に津波に関する研究を行っている世界でも著名な研究者である。数十に及ぶ国際科学プロジェクトを通じて、津波の数値解析、津波への認識の向上、津波対策などにおいて多大な貢献をしている。1987年には、公益財団法人松前国際友好財団のフェローに選ばれ、東北大学首藤伸夫教授の指導の下で研究する機会を得ている。また、研究のみならず、津波や高潮、高波などに対する沿岸域の防災にも貢献している。2004年以降、ユネスコにおける多くの津波事後調査チームを率いてきた。2013年から2017年までは、ユネスコ政府間海洋学委員会 NEAMTWS (Tsunami Early Warning and Mitigation System in the North Eastern Atlantic, the Mediterranean and Connected Seas: 北東大西洋、地中海、接続海域の津波早期警報減災システム)で議長を務めた。さらに、彼の指導した多くの学生が、津波、高潮、熱帯低気圧の解析や評価に携わる有名な大学や研究機関の職員、研究者として活躍している。

## 「世界津波の日」に関する国土交通省の取り組み

国土交通省では、「津波防災の日」・「世界津波の日」である11月5日にあわせ、津波防災に関する国際的な普及・啓発活動の取り組みを計画しています。

### 1. 濱口梧陵国際賞（国土交通大臣賞）

#### ○概要

- ・津波・高潮等に対する防災・減災に関して顕著な功績を挙げた国内外の個人又は団体を対象とし、2019年の受賞者を表彰。

#### ○授賞式、記念講演会

- ・日時：令和元年10月29日（火）
- ・場所：海運クラブ

#### ○受賞者の串本町・広川町の訪問

- ・エルトゥールル号が遭難した串本町の役場、トルコ記念館を訪問（10/31）。
- ・稲むらの火の館、広村堤防を訪問（11/1）。

### 2. 大規模津波防災総合訓練の実施

#### ○概要

- ・近畿地方整備局等にて実施する大規模津波防災訓練において、世界津波の日の広報展示などを実施予定。

#### ○日時・会場等

- ・日時：令和元年11月2日（土）
- ・会場：和歌山県（和歌山下津港）、大阪府（堺泉北港堺2区）

### 3. チリ共和国と連携し津波防災に係る取り組みを実施

#### ○概要

- ・地方整備局等により実施する津波防災訓練において、在日チリ大使館の政府関係者が参加予定（調整中）。
- ・10/30（現地時間）にチリ共和国がチリ国内で実施する津波避難訓練と合わせて、チリで発生した津波が太平洋を伝播して日本に到来することを想定し、日本国内で水門閉鎖訓練を実施予定（岩手県の水門を閉鎖予定）。